

藤井：印章の文様と集落内の集団関係について、印章がどこから出たかはわからないわけで、どこからもでてくるクロスハッチにかんしてはどう説明するのか。たまたま似ているのか、同じ人間集団なのか。

常木：ケルクのなかではそうではないか。

藤井：人間集団と関係があるのか。

常木：個々人で印章をもっていたと思われる。既にケルクで発掘済みの600平方メートル規模で、70点近く出土しているため、全域を掘ると、個々人の分だけ大量に出土するだろう。

藤井：そううまくいくのか。

常木：そういうグループの人がいたと考えられる。

西秋：二分するというだけであれば石器でもできる。

常木：石器と印章とは意味が異なる。印章は所持を示すものだから。

西秋：二つ以上の集団がいたというほかの証拠は？

常木：建物も二種類あります。

星野：ビシュリは崖面が発達しているのか？

常木：パルミラはそうだが、私が観察した限りにおいてはビシュリはそうでもない。

沼本：ユーフラテス河側の斜面には行ったのか。そこに遺跡が集中しているといった状況はないか。

常木：行ってないので、わからない。内陸の山側にはテルはない。ケルンやストーン・サークルばかりが多くて、先史があるかどうか・・・。

西秋：ビザンツの遺跡が多いというが、彼らは何をしていたのか。

常木：遊牧ではないか。

西秋：その時代の人だけものを残したのか。

常木：他の時代のもあるかも。きちんと歩けば。

藤井：あのあたりは先土器青銅器時代だから土器はないと思う。